

題 目 集団内外における共通認識の形成が社会的合意に及ぼす影響
～仮想世界ゲームを用いた研究～

氏 名 越後 汐里

指導教員 大沼 進

環境問題は地球規模の問題ではあるが、一人ひとりの行動に左右される身近な問題でもあり、そこには社会的ジレンマ構造が存在する。社会的ジレンマを対等な個人間で解くための研究は数多く行われてきたが、現実の社会における格差の存在や集団間の対立を組み込んだ状況下で相互協力の達成を示した研究は少ない。そこで本研究では、格差や利害対立のある状況における相互協力の達成と集団間葛藤の解消のための要因として、共通運命に焦点を当てている。話し合いや情報の共有によって共通運命が認識され、相互協力の実現に影響するだけでなく、世界全体へのアイデンティティの形成を促し、葛藤解消につながるかどうか、ということについて仮想世界ゲーム(広瀬, 1997)を用いて検討する。仮想世界ゲームでは世界における南北地域間の葛藤と協調のプロセスがシミュレートされ、飢餓から環境汚染までさまざまな地球規模の問題を単純な形で再現している。分析には2015年度の仮想世界ゲーム参加者(N=99)と2005-2007年度のゲーム参加者(N=723)の質問紙データを使用した。分析の結果、話し合いの参加や情報共有によって環境問題という共通運命が形成、理解されるという過程を経て、寄金の受け入れや支払いという相互協力を達成し、そして同時に、集団間の格差や利害対立を越えた共通運命の存在が地域を越えた世界全体へのアイデンティティを高め、集団間葛藤の解消にもつながっていることが示唆された。さらに、話し合いへの参加は情報共有と共通運命の双方に影響し、その情報共有と共通運命はともに寄金の受容に影響するという具体的な過程が確認された。つまり、話し合いに参加し発言する機会が与えられることで、単に情報の共有が促進されるだけでなく、環境問題が世界全体の問題であるという共通認識が形成されやすくなる。その過程において地域差が見られなかったため、相互協力や集団間葛藤の解消に至る過程は集団間の格差や葛藤を越えて共通するものであると考えられる。また早い段階で形成された共通運命はその後の共通運命に影響し続け、後から形成されたものより大きな影響を与えるということもわかった。現実の社会においても、コミュニケーションを通じて、格差や対立を越えた上位の枠組みで関係を捉え直し新たな視点を得ることで、協力行動や葛藤解消につながるという可能性が示唆される。